

西中だより

平成27年度 No.18
平成27年11月 2日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

&&& 読書感想文コンクール、家族の健康作文コンクールで多数入賞！ &&&

- 過日行われた岩瀬地区読書感想文コンクールにおいて、多数の生徒が入賞しました。これは、日頃から読書に親しみ、本の世界に浸っていた成果です。以下、入賞者紹介【賞・氏名・学年】<敬称略>
 - ・特選：齋藤 茜（1年）、佐藤ひかる（2年）、掛谷憩奈（2年）
 - ・準特選：五十嵐のどか（3年）
 - ・入賞：磯谷壮樹（1年）、鈴木杏奈（1年）、石井瑛玲奈（2年）、齋藤大暉（3年）、松浦瑠那（3年）
- 第22回福島県中学生『家庭の健康』作文コンクール NHK福島放送局賞：須藤果南（2年）
・・#＄# 本校PTA及び名越P会長さんが表彰される！ #＄#・・
- 10月11日（日）二本松市城山総合体育館で開催された、平成27年度県PTA研究大会二本松大会において、団体の部で西袋中学校PTAが表彰されました。また、個人の部で名越稔晃PTA会長さんが併せて表彰されました。ここに、受賞の報告をさせていただきます。



#◇# 記念講演の要旨紹介 #◇# 演題「子どもは親と先生を映す鑑～愚直に誠実に～」元日本銀行、日本長期信用銀行頭取、イーヨーホールディング顧問、セブン銀行代表取締役会長 安齋 隆 様

- 日露戦争の時にイギリス、アメリカが日本にお金を貸してくれたのは、朝河貫一先生が、日本が戦争を始めた大儀について、英文で説明してくれたからである。（借金を作った野口英世がお札になり、日本を救った朝河貫一がお札にならないのはおかしい。）そんな話から始まり、安齋氏が自分の幼い頃を語った話の中から、心に残った話を紹介します。
- 父親は子どもの成長の節目には、必ず授業を見に学校に来ていた。父母は「勉強しろ」とは一言も言わなかった。祖母は、蔵にしまってあった本を読んでいたら、大変喜んでくれた。（それは、戦争で戦死した自分の子どもが読んでいた蔵書であったからである。）
- 「映す鏡」とは、子どもの見方の一つ。定規で測ってはダメで分度器で測るとよい。それは、子どもは限りなくズレ、違うところで良さを発揮している。よって、分度器のような見方が大切である。
- 自分にとって役立つ言葉：「何事も健康第一」「平等なのは時間だけ」「努力には差がある。努力した過程を誉めよ！」※自分自身へ7つの約束「約束は守る、嘘は言わない、隠さない、迷惑をかけない、公私混同はしない、不正はダメ、言動に責任を持つ」

《 校長のつぶやき 》・・・落ち葉掃きが教えること・・・

- 落ち葉の季節となりました。葉は光合成で栄養をつくり、樹木の生長を支えます。その役目を終え、紅葉という自然が造り出す美しい景色の贈り物を私たちに与えてから、その役目を終えて散るのです。先人は知恵を働かせ、落ち葉を堆肥にして土の栄養にして来ました。そんな落ち葉を箒で掃き集め、片づけることは、自然への恩返しのように思えます。
- 今日掃き終えた道を生徒が登校してきます。何気なく感想を聞くと、「気持ちがいいです」「一日の始まりに綺麗な道を歩くと気持ちが引き締まります」などの答えが返って来ました。嬉しくなる瞬間です。やはり、落ち葉を踏んで登校するよりも、掃かれて綺麗になった道を通る方が清々しさを感じるのが改めて分かりました。
- 京都を旅行した折、どのお寺の庭にも箒で掃いた跡が残っていることに気づきました。それは、昨日までの様々な出来事を振り払い、新たな一日が始まることを意味しているように感じました。田舎の農家では、天気の良い日は決まってお年寄りが庭を掃いていたのを思い出します。後で分かったことですが、落ち葉や折れた枝を掃き集めるだけでなく、箒で地面を掃くと草が生えないということを知り、先人の知恵に驚いたものです。

